

# 大鹿スケッチ

第46号  
2014年  
08月  
〈発信者〉  
前志満 くみ  
〈提供〉  
旅舎 右馬允

残暑お見舞い申し上げます。旧暦は正しいとおもふ暑さは続いているけれど「秋」はやはり圧倒的な訪れを遂げている。今年が秋が早かった。ツクツクボウシは七月二六日から鳴きはじめ、朝日も日に日に東の方へずれている、出るところが少し変わっただけなのに、なんでこんなに雰囲気が変わるのだろうか、ああ、なんといふ不思議。宇宙のダイナミックな演出に料を感ずる今日この頃。あ、夏野菜はまだまだ元気です。



## 山と川に育まれて

### 今井償さんが育った環境

二〇一四年五月今年度村でしっかり対策を取っての住民懇談会があった。もらわんと」いつもの飽きと開かれ、村長、副村長、か、「リニアは来てもらってを中心として行政職員が「ちゃ困る」ときっぱり言っ今年度の主要事業や予算、た御老人がいた。こういうご数年はそれに加え、リリがいてくれるお年寄妹の三番目として大鹿村ニア中央幹線事業につ懇談会の重たい空気が一気歳のころ子供がなかったいても専ら住民注目の議に軽さを帯びた。多く住民、東京の親戚に養子に出さ題となっている。

大河原地区の銀座通りとを言ってくれたからだ。学校に通い、荒川で魚釣りを加した。この地区はR一五二号線沿いに位置してここまで来たんだ。大鹿ニア工事期間、最大で一日一七〇〇台の工事関係と、これからはないぞ。生が寂しさを訴え、小学二年車両が通過する。案の定、山と川に助けられたとは今井少年は、「今度は小渋質疑応答の時間の大半は、どういふことか、興味湧今井少年は、「今度は小渋リニア関連で時間が割かれた。後日自宅に伺いお話を聞かせていただく機会を、大鹿村でうもんで、しょうがねえ。得た。

らなかった。雨が降ると、当時はコンクリートで固められていない用水路は木材としてひと時代を築く。天然の川魚であふれた。カジカ、アマゴ、イワナと、それは愉快的な釣りが楽しめるぞ！」村に職場がなかったこと今井さんは自らその

そんな幼少時代を経て時代は太平洋戦争へと進んでいく。今井さんは肺結核を患った。当時、有力な治療法ももなく、医者に見放されたというのがた。そんな幼少時代を経て時代は太平洋戦争へと進んでいく。今井さんは肺結核を患った。当時、有力な治療法ももなく、医者に見放されたというのがた。

正直なところだろう。とりあえず三年間はただ生きるための生活だったといふ。今井さんは父親が山師をしていたこともあり、山の作業小屋で過ごして

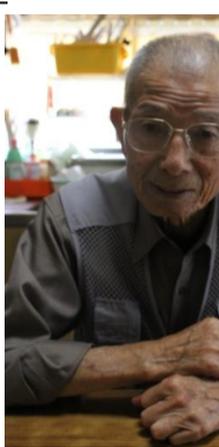
毎日かきしき(※一)のおばさんがいる。驚いた。今までおいしいと思

涼な空気と豊富な蛋白源で徐々に体調を取り戻した今井少年は、かきしきの仕事を

師の仕事も覚え、兄と共に大きな仕事を

のネットワークがあり、腕のいい職人

だ。今井償さん御自宅にて



「大鹿村の風景」  
コトバコレクション  
絶賛発売中!

右馬允内に事務局を構える「おおしか★里山大作戦」では二〇〇九年から地元のおじさん、おばさんが育てた野菜たちを「カタチはそろわなくてもいいよ」「土つき、虫食いでも大丈夫」と言っ

この度、野菜を育ててくださっている「大鹿ネイティブ」の皆さんが農作業時につぶやいた「コトバ」を「村の風景」とともにポストカードにいたしました。

「大鹿村」という環境の中

で培われて感性をお楽しみ

一言からグサツと心に突き

刺さるコトバまで全八枚セ

ツト一部五〇〇円にて右馬

尚、このハガキの売り上げ

大鹿 HeatBeat  
～大鹿の人々～ 第44回  
紙谷 正さん (88)  
季節ごとの風景と共に大鹿人の生活を紹介します。  
ご紹介します。淡々とした日々の中に熱く響く「鼓動」をお届けします。



二〇一四年の夏は、八月一日におやといとなつた。お蚕様の種類を変えたせいなのか、夏の暑さの少ないのか、少し小さめの繭となった。さて、八十肩と